

Bonjour

● ボンジュール
<amical>



目次 sommaire vol.20

- 特集 新潟市・ナント市姉妹都市調印
- 1 姉妹都市提携宣言書 他
- 2~3 篠田新潟市長調印に寄せて 他
- 4 ナント市を訪れて 他
- 5~6 新潟・ナント姉妹都市調印式の記録 他
- 7 「フランス菓子のタベ」、「文化講座」
- 8 事務局通信 他

ASSOCIATION NIIGATA FRANCE ● 発行人 ● 新潟・フランス協会 新潟市中央区東堀通6-1038 (丸屋本店内) TEL・FAX 025 (225) 2424

新潟市とナント市との姉妹都市提携宣言文調印式

新潟市国際課 課長
石塚 里栄子

1月31日、ナント市役所において、姉妹都市提携宣言文の調印式が執り行われました。会場にはナント市、アトランティック・ジャポン協会関係者をはじめ、100人を超えるナント市民が集まりました。また、来賓として飯村豊在仏日本大使が臨席されました。エローナント市長、篠田新潟市長、田村新潟市議会議員、飯村大使のスピーチ、ピアノとヴァイオリンの記念演奏に引き続き、両市長が宣言書に調印をいたしました。

(宣言書)



人と人の絆-1月31日姉妹都市協定

アトランティック・ジャポン協会会長 オリヴィエ・ドゥルアン

1992年2月に新潟の日仏友好協会がナントを訪問したのは、全くの偶然でした。さらに、ナントの日仏協会アトランティック・ジャポンが新潟の方々にナントの川、町、周辺のブドウ畑などを案内したのも偶然のことでした。

このような偶然が重なって、二つの市の住民の間および「友人の友人」の間に、友情が生まれました。

1万キロという隔たりにもかかわらず、ナントと新潟にはたくさんの共通点があります。河口の港町であること、西部に面していること、人口規模、新幹線を利用して首都から二時間の場所に位置すること、地元意識が強いこと、魚介類や酒とミユスカダなどの特産品に恵まれた食文化など。

これまでの両市の交流を振り返ると、しばしば音楽を中心にして二つの市がつながってきたと言えるでしょう。ナントのピアニスト、パスカル・ジロが1992年に新潟市でコンサートを行ったのを皮切りに、1995年6月には、新潟の尺八と琴の演奏家グループによるコンサートがナントで開かれ、さらに、真田氏の琴とヴァシル・コムサ氏のチェロのミニコンサート、つい最近では成嶋志保さん(ピアノ)とパスカル・フェヴァイ氏(ヴァイオリン)の共演などが行われました。また、相互に「文化サロン」を、ナントでは1996年、新潟では1998年に行いました。

さらに、二つの町の繋がりは多様化してきました。

2000年ナント大学オブリ教授による新潟訪問、98年ワールドカップの際にはサッカー交流、ナント美術館の所蔵品83点の展示という美術交流、ランデヴー・ド・レドルにてジャズ交流、2002年ジャラドゥ氏による映画交流など。

並行して市レベルの関係も強化されました。1999年6月にはナント市と新潟市の間に都市交流協定が調印されました。

しかしながら、両市の交流は常に市民を中心とする、二つの文化の違いへの関心が原動力になって推進されてきました。

今日、ナント-新潟の両市の姉妹都市関係は、終着点にはほど遠い、ワンステップとして必然的に現れたのです。この都市交流協定は、両市民の関係を讃え、将来の展望を強調し、ボランティアたちを励ますという点から見て、とてもユニークなものなのです。

ナント市代表団を迎えて

会長 中田 健介

新潟・ナント両市の姉妹都市提携の調印は去る1月31日にナント市役所で無事終えることができたことは誠にご同慶の至りです。

当初の予定では引き続き2月にエロー・ナント市長一行を迎え、新潟市でも調印式を行うことになっていました。しかし国会議員でもあるエロー市長は多忙を極め、新潟訪問が不可能になりました。すでに協会では会員の皆様に案内済みでしたので困惑しました。市長が来れなくても、せめてナント市の代表が来港できないか、と新潟市を通じて交渉した結果、ナント市のカリン・ダニエル助役とアトランティック・ジャポン協会のドゥルアン会長一行を迎えることが実現しました。

2月18日にはイタリア軒でナント市代表団の歓迎レセプションが、会員180人の参加をみて盛大に開催されました。来賓の篠田市長も「新潟市の中でもフランス協会は熱心で内容の濃い立派な団体です」と高い評価をしてくれました。さらに21日にはナント市代表団との昼食会を老舗料亭「行形亭」で開催されましたが、メニューをフランス語で用意してくれ、その気配りにご馳走とお酒が一層美味しく感じました。ついで一行を北方文化博物館へ案内、夜は「大呂庵」でサヨナラ・パーティ。市側から能登谷国際部長、石塚国際課長らも参加、名残りを惜しみました。短い期間でしたが、ナント市代表団と実に楽しく有意義に交流を深めたことと思っています。

名誉領事通信

マルタン領事初来新

新潟フランス名誉領事 豊場 和彰

2008年12月フランス大使館領事部より、フィリップ・マルタン領事が、初めて新潟を訪問されました。

今回の目的は、新潟市への表敬と在新潟フランス人とも面談、そして新潟・フランス協会の方々との交流です。マルタン領事は2008年9月に、前任地エジプトのカイロより当地へ就任されました。過去には、スウェーデンやシンガポールなどでも赴任経験があります。また、ナント市には外務省の出先機関があり、何回か公務で訪問しているとのこと。

また、日本の文化にことのほか興味を持たれており、宿泊は旅館を、また、北方文化博物館の見学も希望されました。本来なら5日(金)から7日(日)まで滞在の予定だったのですが、大使館の公務で6日夕方に急遽帰京されました。

宮崎副市長との面談では、ナント市訪問と、新潟市の分権型田園都市政策の方向性が一致していることが話題になりました。また、新潟・フランス協会での歓迎昼食会では、やはりナント市との今後の交流に期待を寄せられており、領事からも担当は違っても経済などへの協力は惜しまない旨、力強い言葉を頂きました。

滞在した、大呂庵及び隣接する北方文化博物館には非常に感激されたようで、博物館の調度品や庭園、建物の構造を伊藤副館長から丁寧に説明していただき、また一つ一つ写真に撮りながら、熱心に質問されて予定をオーバーして、新潟・フランス協会の歓迎昼食会に20分も遅刻してしまいました。

また、6日午後からは、アルビレックス新潟の残留をかけた最終戦を観戦しました。均衡したエキサイティングなゲームでしたが、ロスタイムにアルビレックスが勝利を決定するゴールを決めたときに、一緒にハイタッチで喜んでいました。とても良いスタートが切れたと確信しております。中田会長はじめ、新潟・フランス協会の方々ホスピタリティにも感謝の念が耐えません。

事務局通信

actualité

本年度は既に始まっておりますが、会員の皆様に有意義で楽しい事業計画を進めて行きたいと思っております。ご指導、ご協力をお願い申し上げます。定時総会の後、5月より内容を大きく変えフランス語初級講座が始まります。アロマテラピー講座、大人気のフランス料理講座が開講されます。またプチ・サロン(軽い食事と講演の気楽なサロン)も準備は進んでおります。秋以降もバスツアーや音楽会、例会等楽しんで頂きたいと思っております。

協会会報「ボンジュール・アマカル」は装いも新たに、さらにパワーアップしてお届け致します。会報委員会の熱意に感謝。次号がますます楽しみになってきました。

入会のお誘い

renseignement

年会費/個人会員 5,000円 学生会員 3,000円



法人会員 30,000円

申込先/事務局または各会員へ

事務局：(株)丸屋本店内 ☎・FAX 025(225)2424

覚えて使おう、フランス語! (身近にあふれるフランス語)

leçon français

	カフェオレ café au lait	シュークリーム chou à la crème	エクレア éclair	ミルフィーユ mille(-) feuille	クロワッサン croissant	グラタン gratin	ポトフ pot-au-feu	オードブル hors-d'oeuvre
	カフェオレ	シュアラクレーム	エクレール	ミルフィーユ	クロワッサン	グラタン	ポトフ	オードブル

編集後記

pas à pas

★ご協力いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回は姉妹都市提携、そして調印という歴史的な場面を記事にできたことをとても光栄に思います。次号もお楽しみに♪ (m)

★今号「amical」いかがでしたでしょうか?この作成を通じ、われわれまめ記者のamitiéもより一層つよいものに! (y)

★東京にお出向の際は、銀座3丁目CHANEL銀座ビル内NEXUSホールはお薦めです (gratuit)。

発行にあたり、ご無理を引き受けて下さった皆様、ありがとうございました。友好・友情・友愛の一助になれば幸いです。

次号でまたお会いいたしましょう。amicalement, (k)

ナントとこころどころ

~ Nantes, au gré des vents ~ ナント、風の吹くままに

大西洋からの風がよく吹く港町ナントの魅力を伝えます。

第3回 「L'heure d'été (夏時間)」

酒井 麻里

「Au temps pour moi!(ごめん、今のなし!)」というフランス語の表現があります。もともと軍隊用語「au temps(もとい)」から来ているのですが、前音を訂正する時に「私のために時間よ、戻れ!」と使う、ちょっとおもしろい表現です。日々是うっかりの私にうってつけの言葉ですが、フランスに居ると…文字通り「Au temps!」という日が一年に2回あります。冬の日照時間が極端に少なくなるため、10月の最終日曜日から「冬時間」として時計の針を一時進め、それを3月最終日曜日に「夏時間」に戻すのです。時間がずれるのは午前1時~2時の間。この日は、ラジオやテレビの夜のニュースでも、「時計の調整をお忘れなく」とキャスターがお知らせしたり、手帖に時計の針を回す絵が記されていたり。それにしても、時計の針をぐるりと動かす度、なんとも不思議な気持ちになります。冬時間移行の夜には1時~2時が2回もあることになり、夏が来る時には、一時間分丸ごとなかったことになるのです。時間とは概念ではないのだと、私の時差ぼけの中を一日過ごします。いつもと同じように動いているのに、なんとなく時間が身体にしっかりとこないのです。

ナント大学はエルドル川沿いにあり、岸をうねうねとした散歩道が続き、中心街から渋滞を避け、風景を楽しみながら自転車や徒歩で通学することができます。しかし冬時間初日、いつものように17時過ぎにこの道を帰ろうとしたら、一寸先は闇。ガードレールや街灯などない自然の道をこのまま行けば、どこかの角で曲がり損ね、自転車ごとエルドルの藻屑となること間違いなし…。この時、「1時間」の重要さを実感し、5ヶ月の暗い冬を思うと急に太陽が恋しくなったものです。ベルセボネーが地上に戻ってくる晩、昨日より灰かに明るいた暮れの中をいそいそと時計の針を逆回転させると、ようやく今年も春が来たなあと思えるのです。



お知らせ

petites annonces

●ホームページ随時更新。

Bienvenue au site de l'Association Niigata-France!



新潟・フランス協会へようこそ!

URL ☞ <http://anfrance.com/>

次号予告

à la prochaine

Bonjour <artistique> は秋頃発行予定です

特集 アートな人たち

- ・4月 定時総会
- ・各種講座報告

連載 ナントとこころどころ 他 ※内容は予定です。

おいしい

